

# 第4章 市街地の整備

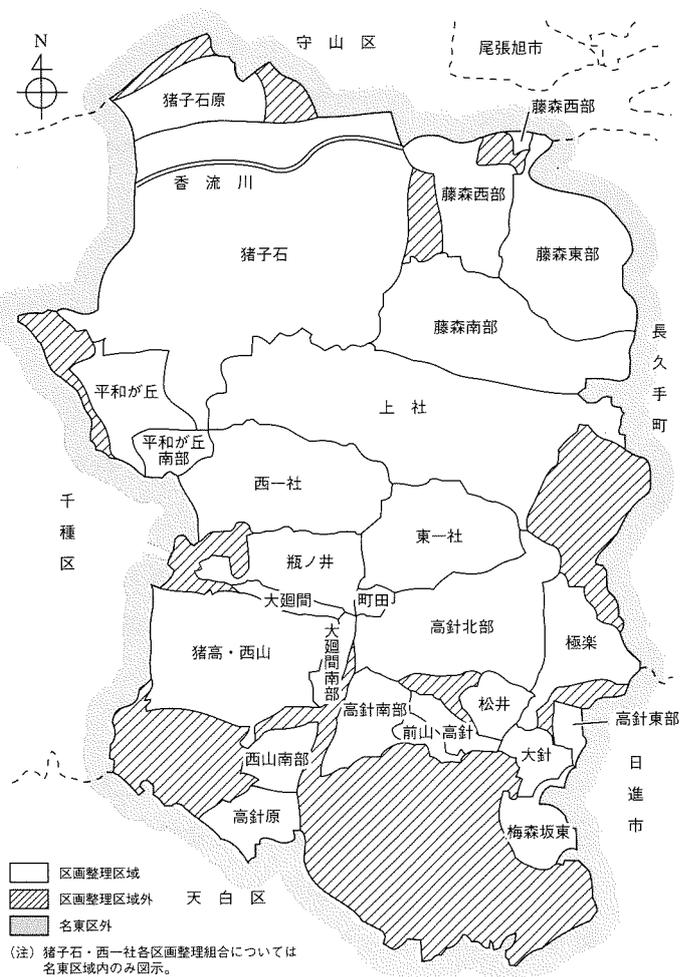
## 1 市街地の整備

### (1) 区画整理事業

区画整理事業は健全な市街地発展の基盤をつくるため、道路、学校、公園、下水道などの公共施設を整備し、住宅地、商業地などを計画的に造成する事業です。「区画整理は都市計画の母」ともいわれ、区画整理なしには都市計画も思うにまかせません。名古屋市周辺の地区では組合施行の区画整理事業がほとんどで、名東区もその例外ではありません。昭和30年に名古屋市長によって施行された猪高西山土地区画整理事業に刺激を受けて、昭和35年9月に大廻間土地区画整理組合、同36年4月に大廻間南部土地区画整理組合、同37年4月には西一社土地区画整理組合と続々と区画整理組合が設立されました。施行面積423.93haと市内第一、全国でも最大級の事業面積を誇る猪子石土地区画整理組合が設立されたのも昭和37年4月です。名東区内にはこれまでに25の区画整理組合が設立されましたが、22組合が事業を完了し高針原・梅森坂東・猪子石原の3組合が施行中です。土地区画整理事業の施行面積は名東区の面積の約80%にも及んでいます。

東名高速道路、地下鉄東山線、名古屋環状2号線などの用地取得にあたっては沿線の各組合からの積極的な協力があり、地下鉄東山線の延長計画にいたっては当初計画よりも数年早く開通することができました。

区画整理区域図



区画整理工事

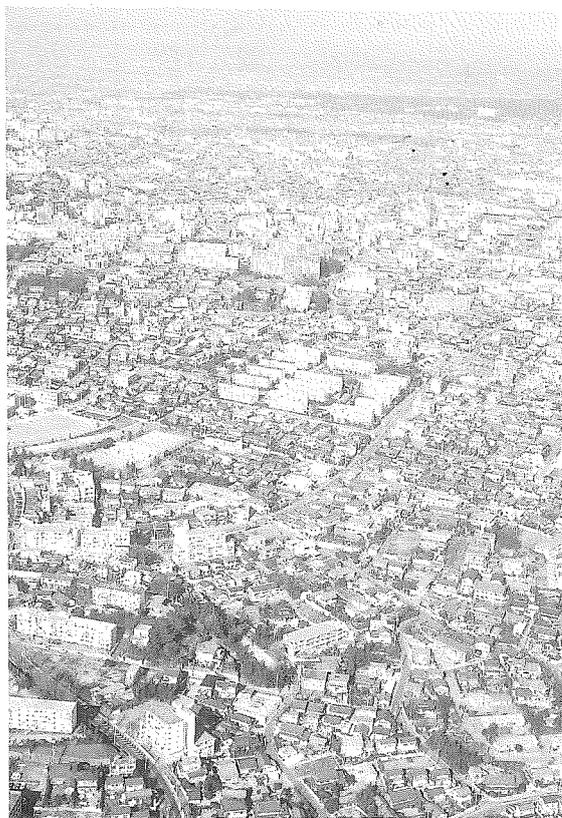
## 土地区画整理組合一覽

名 称	設立認可年月日	換地処分公告年月日	施行面積
① 大 廻 間	35. 9. 27	44. 5. 29	7.62ha
② 大廻間南部	36. 4. 17	42. 4. 27	7.24
③ 猪 子 石	37. 4. 16	61. 5. 2	423.93
④ 西 一 社	37. 4. 16	51. 10. 2	98.23
⑤ 瓶 ノ 井	38. 11. 26	49. 11. 14	44.83
⑥ 高 針	38. 12. 27	45. 3. 7	11.28
⑦ 平和ヶ丘南部	39. 11. 12	52. 1. 22	15.10
⑧ 平 和 ヶ 丘	40. 3. 12	51. 10. 9	39.37
⑨ 上 社	40. 10. 2	59. 2. 10	200.72
⑩ 大 針	40. 11. 6	52. 5. 28	16.80
⑪ 藤 森 東 部	41. 3. 4	45. 7. 29	86.25
⑫ 藤 森 南 部	41. 5. 19	49. 10. 31	100.27
⑬ 町 田	41. 8. 5	47. 7. 19	4.95
⑭ 極 樂	41. 8. 12	54. 6. 16	42.17
⑮ 前 山	43. 5. 9	55. 9. 22	8.34
⑯ 高 針 北 部	44. 11. 6	61. 2. 8	87.85
⑰ 東 一 社	45. 11. 20	61. 8. 30	67.78
⑱ 松 井	45. 12. 7	56. 6. 13	14.63
⑲ 高 針 南 部	46. 12. 2	59. 9. 22	29.63
⑳ 藤 森 西 部	48. 7. 30	57. 10. 30	42.81
㉑ 西 山 南 部	51. 7. 26	60. 7. 20	20.50
㉒ 高 針 東 部	56. 4. 15	62. 11. 14	13.29
㉓ 高 針 原	62. 9. 21		18.02
㉔ 梅 森 坂 東	元. 11. 24		18.89
㉕ 猪 子 石 原	2. 6. 29		39.52

## (2) 名東区の土地区画整理組合

### ① 大廻間土地区画整理組合

隣接する名古屋市長施行の猪高西山土地区画整理事業で山を削り西山団地を造成しましたが、その残土を利用して本地区の低地を埋め立てました。組合施行の区画整理事業としては名東区内で初めて、市内でも14番目と早い時期の組合です。まだ区画整理事業が一般には知られておらず資金繰りに苦労しました。保留地に特に良好な土地を選んだ結果、そこに商店街ができ、市街化が進みました。



西山団地

### ② 大廻間南部土地区画整理組合

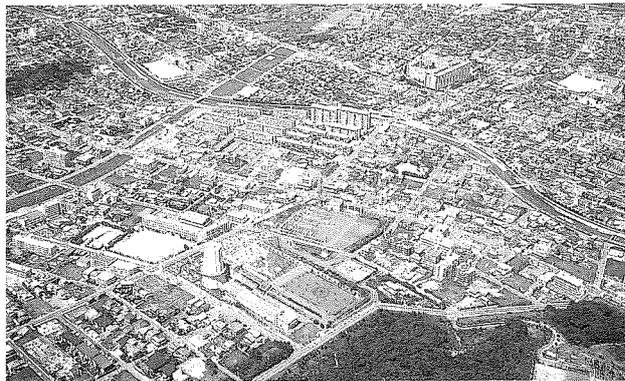
施行前は大部分が水田でした。隣接する西山団地の造成に刺激されて、宅地造成の気運が高まり組合が設立されました。間口の広い宅地の造成に心掛け、また住宅地には下水道が必須と考えて、当時としては画期的に下水道を全面布設し、近隣の下水道整備に役立ちました。

### ③ 猪子石土地区画整理組合

千種区と名東区にまたがった広大な地域を対象に行われ、その規模は名古屋市の区画整理組合では最大の423.93haです。区画整理前は丘陵地が3分の2、農地は香流川流域に集中していました。区画整理事業が一般に周知されていない時代で資金繰りに苦労しました。広大な土地を一斉に工事することが出来ず、調整に手間取りました。地区内に名東警察署、名東図書館、猪高車庫、猪高配水場、小学校5校、中学校2校、県営猪子石団地、市営猪子石荘などを誘致し、現在では静かな環境の住宅地に生まれ変わりました。



猪高配水場



県営猪子石住宅

#### ④ 西一社土地区画整理組合

名古屋市から昭和32、33年頃に区画整理の打診がありました。当初は田畑が減るのを懸念する声が多く消極的でしたが、発起人の努力により組合が設立されました。当時はまだ区画整理事業が理解されておらず、銀行に融資を拒まれたので、組合役員の土地を担保に農協から融資を受けて事業運営にあてました。地下鉄東山線の用地、一社駅前広場の用地の寄付など地下鉄開通の力添えとなりました。



一社駅周辺



名東福祉会館

#### ⑤ 瓶ノ井土地区画整理組合

この地区は丘陵地で山林と田畑が大部分でした。近隣の猪高西山土地区画整理事業に刺激され宅地造成の気運が盛り上がりました。当時はまだ地下鉄も開通しておらず保留地処分も交通の便が悪いという理由で、なかなか処分できずに資金繰りに苦勞しました。名東小学校、西山台幼稚園、名東福祉会館、亀の井保育園などを誘致しました。

#### ⑥ 高針土地区画整理組合

この地区は約75%が農耕地でしたが、近隣の大廻間南部土地区画整理組合の役員が中心になって組合設立が進められました。地元の区画整理に対する理解が深く事業は順調に進みましたが、都市計画道路東山岩藤線の幅員16mは広すぎるとの声が上がり苦慮しました。当時の英断により現在ではこの地区も大きく発展しています。



高針第二公園

### ⑦ 平和ヶ丘南部土地区画整理組合

この地区は93%が山林で、田は4%、住居は7棟と区画整理事業地区としては恵まれた環境でした。近隣の猪子石土地区画整理事業に触発されて組合が発足しました。資金面でも既にほかの地区の事業で実績が残されていたので融資もすんなり決まりました。現在は閑静な住宅地となっています。



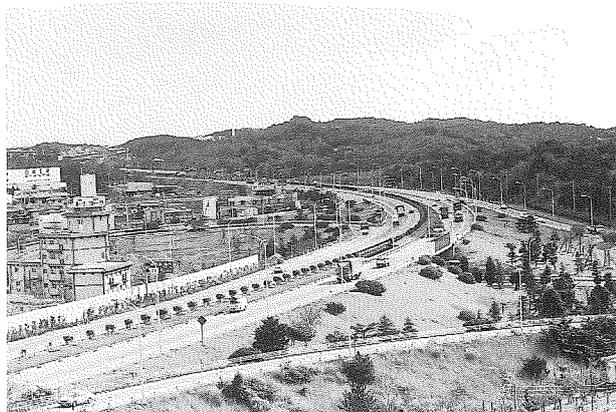
平和ヶ丘第二公園



濁池公園

### ⑧ 平和ヶ丘土地区画整理組合

当時この地区は大部分が山林で、住居はわずかに点在するだけでした。近隣で区画整理が進む中で、このままの状態では地域の発展に支障をきたすと、市内に点在していた地主に呼び掛けて組合が発足しました。当初は平和ヶ丘南部と一緒に事業を実施する予定でしたが、事情により平和ヶ丘・平和ヶ丘南部の二つの組合での施行となりました。現在は幹線道路沿いは商業地として、ほかは住宅地として発展しています。



### ⑨ 上社土地区画整理組合

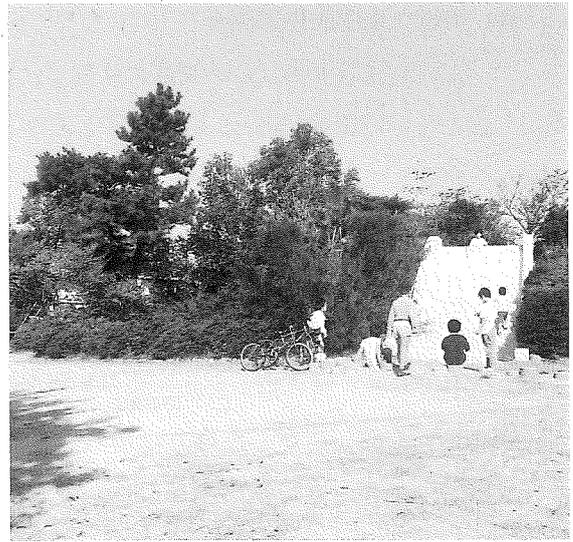
この地域は北部及び南部から緩やかな勾配で傾斜したすり鉢状の地形で、約50%が農地、残りは山林でした。名古屋市の都市計画がからみ、市からの再三の説明と技術的援助の確約を受けて整理組合が発足しました。施行面積200.72haと当時市内第5番目の規模もさることながら、地域内に東名高速道路名古屋インターチェンジ、県道名古屋長久手線、地下鉄東山線が予定され、その用地の確保、買収問題などの苦勞がありました。しかし地下鉄用地、上社駅前広場用地の寄付をはじめ、猪高小学校、上社小学校、千種高校、名東社会教育センター、名東区役所、名東土木事務所の用地を確保し健全で優良な住宅地を創出するとともに、県道名古屋長久手線その他の幹線道路沿い及び地下鉄東山線の沿線は商業地として発展し、今日の繁栄につながっています。



名古屋インター

#### ⑩ 大針土地区画整理組合

この地区は東部を日進市に接した丘陵地で大部分が山林、民家は2棟でした。当時、名東区の東部地方の区画整理は時期尚早との意見が大半でしたが、将来に備えて宅地化を推進すべく組合を設立しました。当時は交通の便が悪く、保留地処分はまったくといってよいほど売却できない事態が続き、資金面で苦勞しました。



大針第一公園

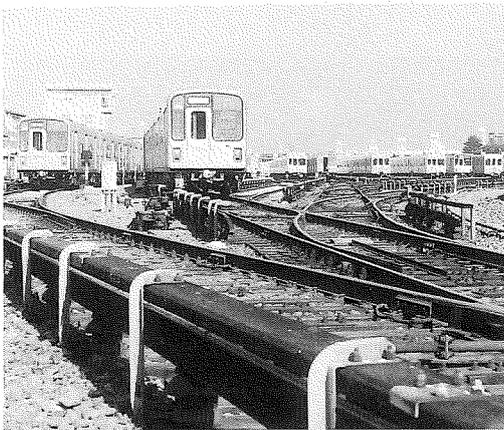
#### ⑪ 藤森東部土地区画整理組合

組合の設立当時は地区の3分の2が田畑で残りは丘陵地でした。地質が農耕地に適していなかったこと、農業を継ぐ者が減少していたこと、東名高速道路が当初の計画では地区の東部を通ることになっていて、地区全体で用地を負担するとの合意があったことの3つの要因が重なり区画整理の実施に踏み切りました。

この地区の中央には現在地下鉄東山線の終着駅「藤ヶ丘」があります。地下鉄が上社方面まで来ることは決まっていたのですが、操車場などの用地確保に苦慮しているとのことで当

組合から地下鉄用地、車庫用地、駅前広場用地を寄付して「藤ヶ丘」駅の実現となりました。また駅前に住宅公団藤ヶ丘市街地住宅を誘致、藤が丘小学校、藤森中学校、藤が丘保育園などの用地を確保し住宅環境整備に努めた結果、当時名東区内では最高の37.96%という減歩率になりました。

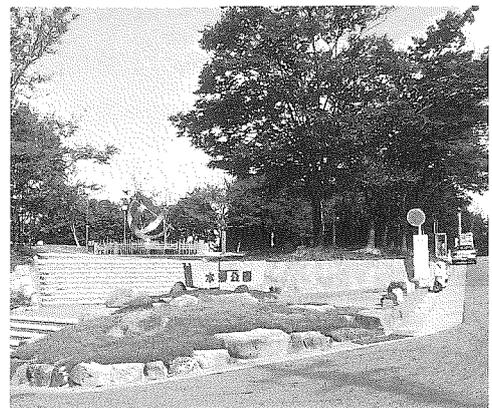
現在「藤ヶ丘」駅周辺は商業地域として発展し、また周辺市町村からのアクセス拠点として重要な役割を担っています。



藤ヶ丘操車場

#### ⑫ 藤森南部土地区画整理組合

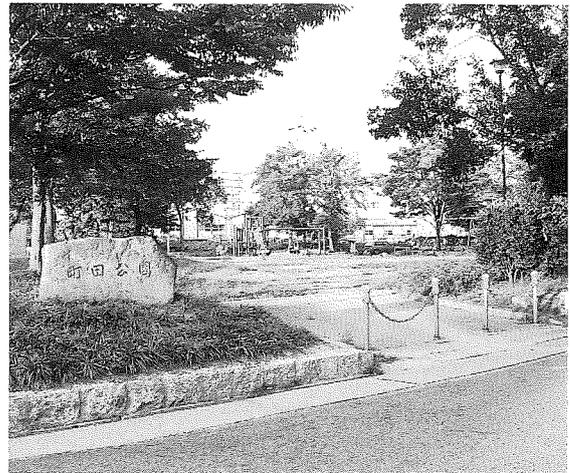
この地域は東を長久手町と接し、地区南部には地下鉄「本郷」駅があります。また東名高速道路が地区の北西から南東に走っています。この東名高速道路の計画が具体化したことが組合設立の契機となりました。本郷駅前広場と路線用地を寄付し、また本郷小学校、名東社会福祉事務所の用地を確保しました。本郷公園には事業の記念碑を兼ねた日時計が設置されています。



本郷公園

### ⑬ 町田土地区画整理組合

この地域は名東区の中央部に位置し、明徳寺を中心として戸数約150戸の兼業農家を主体とした集落を形成していました。北西に面する瓶ノ井土地区画整理組合の事業が進展するにつれ都市計画道路西山下社線が築造され、これを松本鳴海線に接続する必要が生じ本組合の設立となりました。事業の施行中に名古屋第2環状線の計画決定があり、当初の事業計画を大幅に変更しなければならなくなりましたが、現在では沿線が商業地域を形成しつつあります。



町田公園

### ⑭ 極楽土地区画整理組合

この地区は北と東を猪高緑地に接した丘陵地で、開墾によって農耕地ができましたが土質が悪く、周辺での区画整理が進むにつれて、宅地化を望む声が多くなり組合の設立となりました。また施工面積の約半分をビル会社が買い取り、組合設立に積極的な協力を得たので、事業の進行は仮換地処分、移転補償などで問題はあったものの概ね順調に進みました。現在では住宅も立ち並び、昭和55年4月には極楽学区が新たにできたほどです。



極楽公園

### ⑮ 前山土地区画整理組合

この地区は南側を「牧野ヶ池」に接した地域で、組合設立当時は大部分が畑でほかは山林と荒地でした。周辺の区画整理が進みこの地区も事業に踏み切りましたが、牧野ヶ池からの用水路の問題で関係機関との調整に手間取り、組合設立に時間がかかりました。現在では県内有数の広さを誇る牧野ヶ池が眺望出来る優良な住宅地として発展しました。



牧野ヶ池



厚生院

#### ⑩ 高針北部土地区画整理組合

この地域は東を猪高緑地、西を植田川に挟まれた地域で、大部分が丘陵地でした。地域の約半分が農地で、3分の1が山林でした。極楽、大針地区の区画整理にともない、水道のルートを確認するための公共施設の整備が必要となったことと、地元でも地域発展のためには区画整理が必要との意識が高まり組合設立となりました。この地区は地形上、東一社や極楽地区からの水が流れ込むため排水設備の整備に苦勞しました。また施行中に名東区が千種区から分区独立する時期と重なりました。地区内には身体障害者スポーツセンター、福祉医療センター名古屋市厚生院をはじめ極楽小学校、高針台中学校など誘致した施設は多数に上ります。

#### ⑪ 東一社土地区画整理組合

この地区は北部から南部へ、東部から西部へと傾斜した丘陵地で、農地は谷間と県道松本鳴海線以西の区域にありました。隣接地域の区画整理事業が進展したことで植田川の改修工事の申し入れが名古屋市からあったことに加えて、減反政策がとられた高度成長期という時代を背景に組合設立となりました。旧住宅地を含めた事業のため住民の理解と協力がなかなか得られませんでした。貴船小学校、水道局名東業務所などを誘致しました。



貴船公園



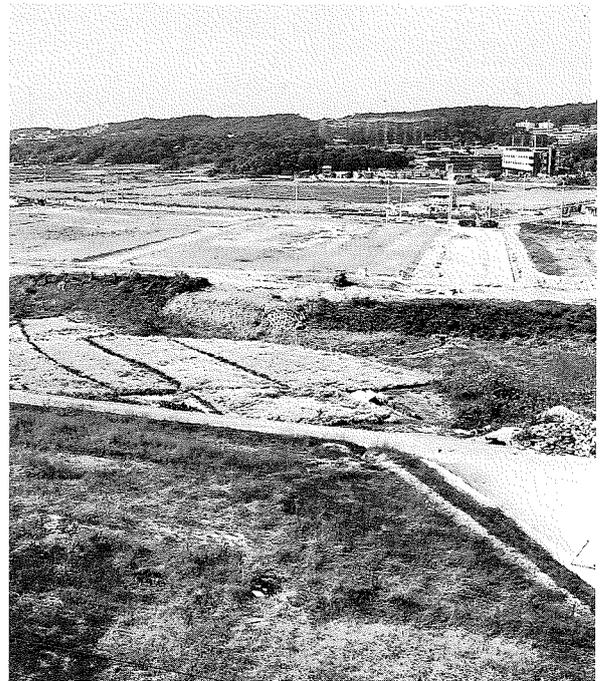
松井第一公園

#### ⑱ 松井土地区画整理組合

この地区は名東区の南部に位置し、地区の中央部が高い丘陵地で農地と山林がほぼ半分ずつでした。農地はほとんどが畑で、田は谷間に一部あったぐらいです。周囲で区画整理が進むにつれ開発の波が押し寄せ、組合の設立となりました。保留地処分の段になって、第一次オイルショックにより日本経済が急変し、落札者の中には契約を取り消す人も出て、資金繰りに苦労しました。銀行からは融資がしてもらえず、農協に資金援助してもらいました。

#### ⑲ 高針南部土地区画整理組合

この地区は牧野ヶ池の北側にあたり比較的平坦な地勢で、約80%が農耕地でした。都市計画道路東山岩藤線の早期整備がのぞまれていましたが、買収によるよりも区画整理事業によつての整備が望ましいと組合を結成しました。減反政策などの社会情勢も組合結成に大きく影響しました。県道沿いの仮換地や家屋移転に苦労しましたが現在は商業地として発展しています。また前山小学校、牧野池保育園などを誘致し住環境も整い県営高針住宅をはじめ現在ではたくさんの住宅が建っています。



県営高針住宅用地造成

#### ⑳ 藤森西部土地区画整理組合

名東区の北東端に位置し北側は香流川に接しています。中央から南と北に傾斜した地勢で約50%が農地、15%が山林でした。周辺で区画整理が進み、地下鉄が藤が丘まで来るなど市街化の波が押し寄せ、また農業従事者の減少などが要因となって組合が結成されました。

西山下水処理場の処理能力が限界となり地域の北半分の約20haについては組合独自で下水処理施設を設けなくてはならなくなり香流川沿いに処理場を作りました。

地区内には猪高無線中継所、名東環境事業所、名古屋勤労者福祉センター（名古屋サンプラザ）、

豊が丘小学校、豊が丘コミュニティセンターなどが誘致されました。また名古屋市住宅供給公社藤森住宅の誘致など住宅街として着実に発展しています。

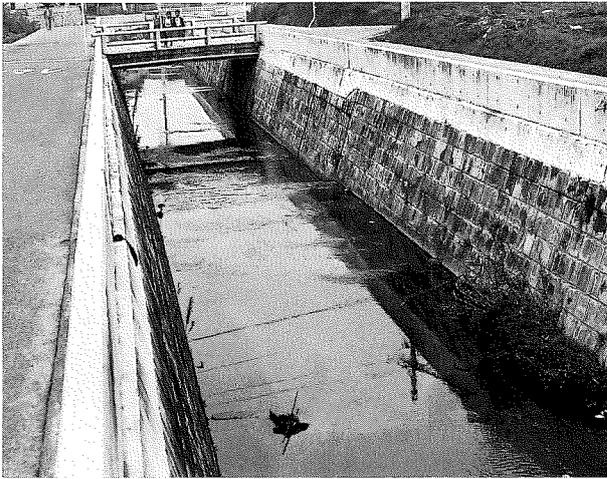


豊が丘コミュニティセンター

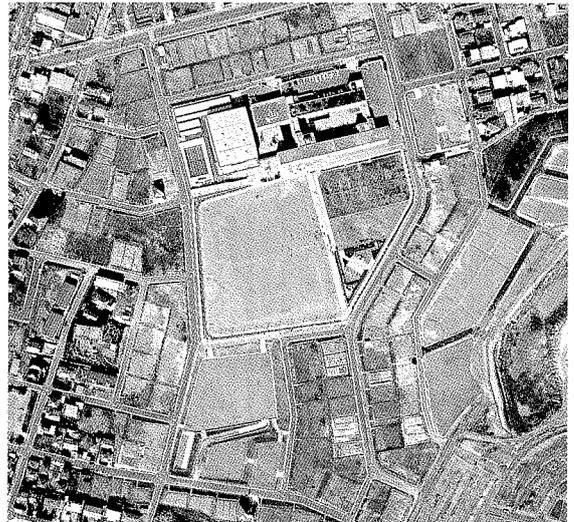
②① 西山南部土地区画整理組合

この地区は牧野ヶ池緑地の西側にあたり東と北から西と南に緩やかに傾斜する地勢で81%が農耕地でした。植田川の改修工事が完了し、都市計画道路の用地買収が済み、かつ農業人口が減少して耕作を放棄する世帯が半数を越えるなどの要因が重なり、昭和51年7月に組合を設立しました。事業は順調に

進み、牧の原小学校、牧野原保育園を誘致しました。西に東山公園、東に牧野ヶ池緑地と恵まれた環境を生かして閑静な住宅地として発展しています。



植田川改修工事



名東高校周辺

②② 高針東部土地区画整理組合

名東区の東南、極楽地区の南側の丘陵地でほとんどが山林でした。市立高校の建設計画が持ち上がり、地元でも高校誘致が話題となりました。地盤高の調整と、造成地の整合性の確保に苦労しました。現在では名古屋市立名東高校を誘致し、また大針中央公園を造るなどして環境整備も進み宅地化が進んでいます。

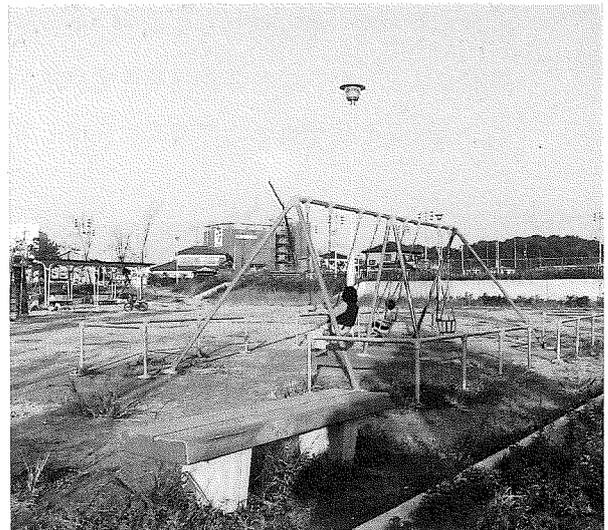


大針中央公園

### ⑳ 高針原土地区画整理組合

この地区は、南東部から北西部に傾斜する標高約25mから40mの丘陵地で、名古屋環状2号線沿い及び地区の北部に店舗、住宅などが点在する程度で、大部分は農地でした。

工事は名古屋環状2号線、高針大高線、および先に施工の区画整理地区と整合させる必要から、ほぼ全面盛土の整地が行われました。



高針原公園



造成工事

### ㉑ 梅森坂東土地区画整理組合

この地区は、北部及び西部の平坦地に家屋が散在していたほかは、大半が雑木林の緩やかな丘陵地で、標高は41mから69mでした。

北西部は既存の宅地に整合するように造成され、その他の地区は緩やかな丘陵地という地形を生かし、また隣接地区との整合性を考慮して、道路より50cmから120cm高く宅地が造成されています。

### ㉒ 猪子石原土地区画整理組合

この地区は、東西に長い平坦地で、都市計画道路新出来町線沿いに集落があり、その集落と天神下住宅のあいだに農耕地が広がっていました。

公共用地の確保、宅地の整備のために建物51戸などの移転が必要でした。

また、和示良神社周辺が、森林地域及び埋蔵文化財包蔵地に指定されていて、土地利用の規制があり地形等を考慮しながら造成工事が進められています。



造成工事

## 2 水の供給

名東区内の給水人口は約15万3千人、給水戸数は約7万戸であり、名東区の都市化、宅地造成の進展によって昭和50年に比べ給水量で約2倍となっています。

水道施設としては、昭和40年10月に開所した猪高配水場があります。この配水場は春日井浄水場から送られてきた水をいったん貯えるための大きな配水池（3池、6万 $\text{m}^3$ ）があり、さらに1池（3万 $\text{m}^3$ ）の増設工事が平成7年に完成します。その配水区域は名東、千種、守山、天白など東部6区にまたがり、市内配水場のうち最大規模です。また、昭和59年5月に完成した猪高配水塔は、停電時にも水を濁らせず安定した配水のため機能しており、災害時の応急給水用を含め7,500 $\text{m}^3$ の飲み水が確保されています。塔の高さは48.1m、展望スペースの高さは18.2mです。展望スペースは東山給水塔とともに水道週間などに一般市民に開放され親しまれています。

この他、地震災害など非常時に区民の飲料水を確保するため、牧野ヶ池緑地、極楽公園、猪子石公園、名東区役所、猪高配水場の5か所に応急給水施設が設置されています。

名東区の給水人口の推移

年 度	給水人口 (人)	戸 数 (戸)
昭和50年度	91,463	30,713
昭和55年度	124,386	48,475
昭和60年度	142,561	57,461
平成2年度	151,451	67,162
平成5年度	151,499	69,344

(数値は年度末数値)



応急給水

## 3 下水道の整備

名東区内で発生する汚水は、3か所の下水処理場で処理しています。区の北部は守山処理場、南部の植田川左岸一帯は植田処理場、そして中央部は西山処理場が受け持っています。

この西山下水処理場は、市内の処理場の中で一番小規模なものです。戦後最も早く建設された処理場で、区の誕生に先立つこと15年余も前の昭和34年から稼動しています。

この処理場は、良好な都市型住宅としての集合住宅の草分け的存在である西山団地の建設にあたり、土地区画整理事業に合わせて造られたものです。また汚水と雨水を分けた排除方式である「分流式」の採用も名古屋市では初めてのことでした。

下水道網の整備はこの西山処理区から始まり、区発足時には、同処理区のほとんどが完了していました。

守山、植田、両処理場は、ともに昭和50年代になってから処理を始めた名古屋市では新しい下水処理場で、高針地区など植田処

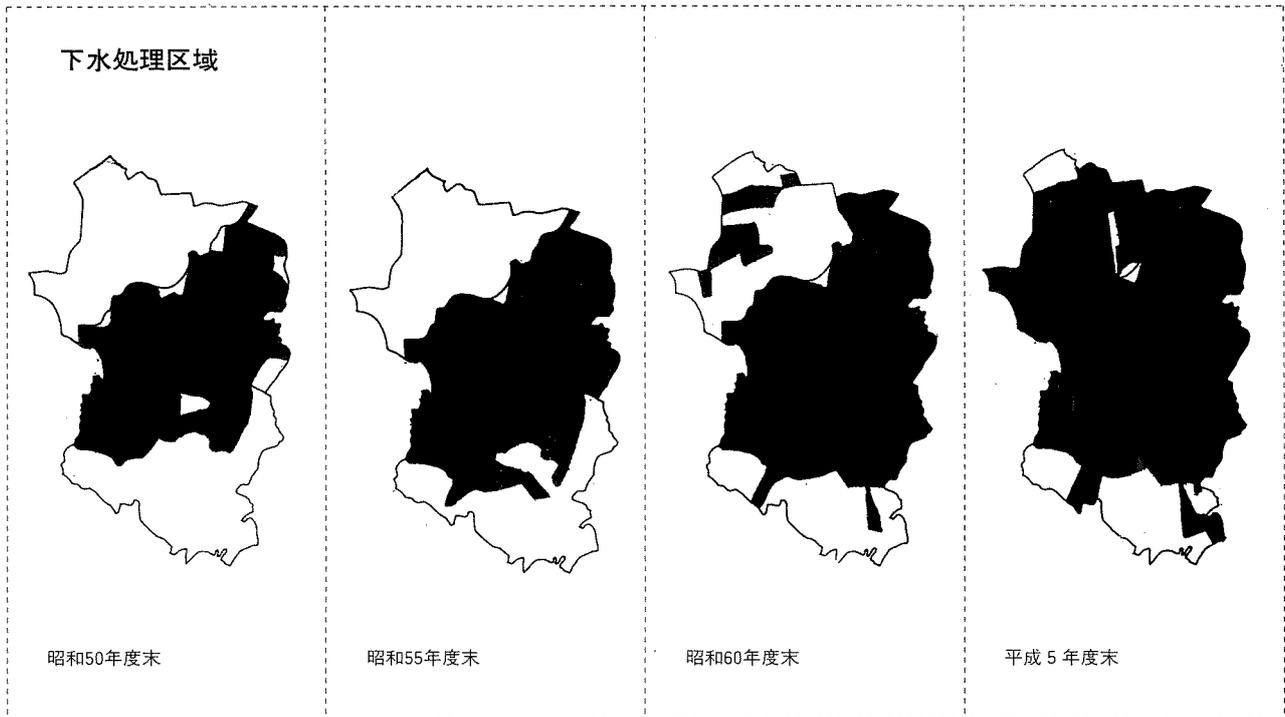
下水処理区域図



理区内は、50年代の後半から順次整備がなされてきました。

一方、猪子石地区など北部の汚水は守山処理場で受け持つことになりました。北部一帯の下水道整備は、矢田川を横断して守山区側に汚水を送る幹線工事に合わせ、60年代から平成にかけて急ピッチで進められてきました。

このような経緯を経て平成5年度末現在では、梅森坂、猪子石原の一部などわずかな地域を除いて、下水道の整備はほぼ完了し、今後は未整備区域を早く整備するとともに、維持管理、質的向上に重点を置く時代に入ったといえるでしょう。



#### 4 道路の整備

名東区内の道路は、延長383km、面積3.5km<sup>2</sup>で区域面積の18%を占めています。主な幹線道路は、主要地方道名古屋長久手線が東西に走り、南北には、平成5年度に一部の区間で整備が完了した一般国道302号線が、都市活動の大動脈としての役割を担っています。これらの、道路を結ぶように補助幹線道路及び主に区画整理事業で整備された区画街路で道路網をなしています。

##### (1) 道路の改良

名古屋市では、第11次道路整備五箇年計画（平成5年度～平成9年度）に基づき名古屋圏の発展と都市基盤の整備を体系的かつ計画的に推進しています。

区内での道路改良は、都心部との連絡路線での交通渋滞の解消を図るため、区東南部において星ヶ丘から日進市に至る県道岩藤新田名古屋線の道路拡幅・歩道整備等が行われています。

これとは別に建設省の事業として、一般国道302号線の整備が進められ、名古屋長久手線以北については整備を終了するとともに、東名阪自動車道が東名高速道路と連結しました。

このほか、路面を下げて宅地への浸水被害を防止する道路の二次改良工事や、交通安全対策の一環として歩道を新設して安全な街づくりがすすめられています。

## (2) 道路の維持

現在区内のほとんどは舗装されていますが、幹線道路は昭和30年～50年代始めに整備された路線が多く、また生活道路は昭和50年前後に区画整理事業で整備されたもので、老朽化が目立って来ています。そのため、道路の機能を十分発揮させ自動車交通の増加・大型化に対応できるように、幹線道路ではアスファルトの打ち換え、あるいは表層を切削しアスファルトコンクリート被覆が施工されています。一方、生活道路についても、計画的に再舗装あるいは補修がされています。

## (3) 道路環境の整備

名東区が誕生した昭和50年代当初は土地区画整理事業による道路の建設を主体とした整備が進められていました。その後、道路の担う役割の質的变化に伴い、街づくりにおいて人と車が調和した道路整備が必要となってきました。

具体的には、緑道・自転車歩行者専用道・花と緑の散歩道あるいはコミュニティ道路などの整備を行い歩行者・自転車が安全に通行でき緑ゆたかであるおいのある街づくりがすすめられています。



コミュニティ道路

## 5 河川の整備

名東区には、庄内川水系の矢田川・香流川・藤の木川及び天白川水系の植田川・前川が流れています。

昭和30年代以降の急速な宅地開発は、雨水流出量の増大をもたらし、各地で浸水被害や河川環境の悪化をもたらしました。名古屋市ではこのような「水」による被害や生活環境の悪化を克服するとともに、河川・水路・ため池等の都市に残された貴重な自然を緑のスペースとして、都市社会の中に再生させる事業にも取り組んでいます。

一般に「川」と呼ばれるものには、庄内川や矢田川のような大河川から幅1mにも満たない用・排水路まで含んでいます。この内、公共の利害に重要な関係のある河川については、一定の手続きの下で指定され河川法の適用、または準用を受けて、国・県あるいは市がそれぞれ管理しています。

名東区内では、管理区分に基づいて植田川の環境整備工事が実施されています。また、「名古屋市総合排水計画」に基づいて河川・一般排水路が整備され、丘陵地雨水対策事業として、雨水貯留施設（よもぎ調整池・山の手調整池・八前調整池）が築造されるなど、雨水の流出抑制が行われ、雨に強い安全な街づくりが進められています。

### 河川の管理区分

種 別		指定対象河川	管理者	河 川
一級河川	指定区間外	国土保全上又は国民経済上特に重要な水系に係る河川	建設大臣	庄内川、矢田川（宮前橋より下流）
	指定区間		県知事	庄内川、矢田川（宮前橋より上流）
二級河川		一級水系以外の水系で、公共の利害に重要な関係があるものに係る河川	県知事	天白川、植田川（高針橋より下流）
準用河川		一・二級河川以外の河川	市長	植田川（高針橋より上流）、前川、藤の木川

## 6 市民の足

### (1) 地下鉄

名東区内における基幹交通の一翼を担う地下鉄は、昭和44年4月1日（1969年）に、東山線が星ヶ丘駅から藤ヶ丘駅まで延長された時から始まりました。

名東区内の地下鉄駅は、開通当時一社駅、本郷駅、藤ヶ丘駅の3駅でしたが、その後昭和45年12月10日に上社駅が新設されました。

地下鉄の開通当初における、名東区内3駅での乗車人員は昭和44年では、1日あたり4,694人でしたが、23年後の平成4年には4駅で68,284人となり、当時の約15倍にもなりました。

地下鉄の開通により交通が一段と便利になり、当時千種区の東部であった現在の名東区に、人口が急激に増加しました。

名東区内の地下鉄駅での開業後の改修は、乗降客の最も多い藤ヶ丘駅が最初でした。藤ヶ丘駅ができた当時は改札口が1つ

（北側）でしたが、乗降客の増加に対応するため、南側にも改札口が増設されました。

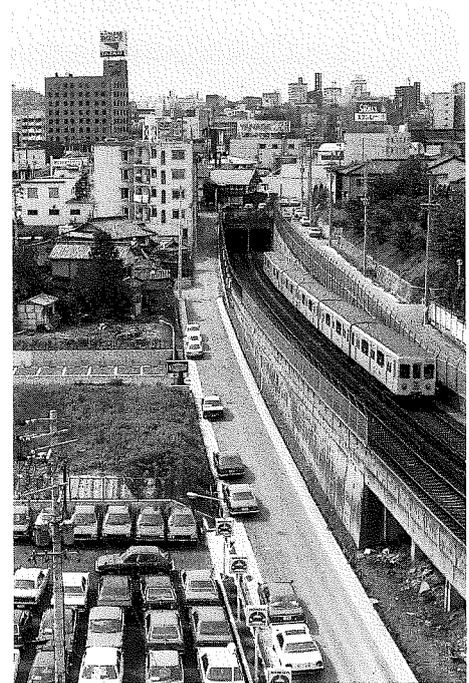
同時に駅西側「市バスターミナル」の一部にビルが建てられ上階には市営住宅がつけられました。

さらに平成5年度には、わかしゃち国体を前にして、駅のリフレッシュが行われ、同時に市バスターミナル付近も整備され、名東区の東玄関によりふさわしい駅になりました。

名東区内で最後にできた上社駅ですが、乗降客の急増に対応するため、西側に改札口が増設されるとともに、駅舎の改造が行われ利用のしやすい駅になりました。

定期券の利用者のために、藤ヶ丘駅に定期券の自動発売機が設置され、一社駅には市バス回数券の発売機が設置されて市バスの利用者の便宜が図られています。

鉄道の営業の他に付帯事業として、平成5年5月から一社駅と本郷駅で、「DO！一社」と「DO！本郷」の営業が開始され着実に実績を上げています。さらに平成6年5月からは「DO！藤ヶ丘」の営業が開始されました。



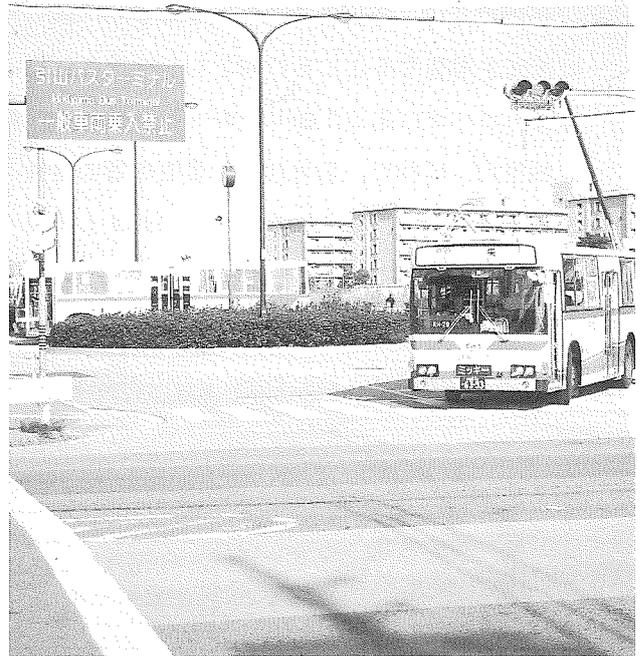
一社駅東付近

名東区内駅別一日あたりの乗車人員の変遷

年 駅名	昭和46年	昭和49年	昭和55年	昭和60年	平成2年
一社駅	5,239人	10,826人	13,795人	14,639人	17,581人
上社駅	666	2,301	6,159	8,230	11,696
本郷駅	1,033	3,852	7,750	8,571	10,859
藤ヶ丘駅	3,586	13,929	19,057	19,901	23,129
合計	10,524	30,908	46,761	51,336	63,265



本郷駅



引山バスターミナル

## (2) 市営交通バス

昭和44年4月1日、待望の地下鉄が藤ヶ丘まで開通し、猪高町の大発展がスタートしました。昭和45年12月10日には、上社駅が開設され、ここに名東区を横断する地下鉄の大動脈と、それを補完するバス路線網ができました。こういう状況の中、昭和47年12月天白自動車運輸事務所星ヶ丘分所を発展解消し、名東区が千種区より分離独立するよりも早く、今日の猪高営業所、当時は猪高自動車運輸事務所が開設され、市内東部地区バス路線の拠点として動きだしました。

その後、順次バス路線の充実が進められ、特筆すべきは昭和60年4月に、理想的な都市バスの在り方を目指したバス路線として基幹2号が新設されました。基幹2号は、全国初の中央走行方式を採用し、カラー舗装したバスレーンは朝夕のラッシュ時には、専用レーンとなります。さらに、平成2年12月には深夜バスが運行されました。

今後は、藤ヶ丘バスターミナルの充実、本郷、上社、一社、星ヶ丘の各ターミナルの機能拡大、一般国道302号線への路線新設等が期待されています。



基幹2号 バスレーン

## 7 郵便事業・電話事業

### (1) 郵便事業

郵便事業は、郵便のサービスをなるべく安い料金で、あまねく、公平に提供することによって、公共の福祉を増進することを目的として運営されています。情報化が急進し、多様化、高度化する中で、利用者のニーズに応じた様々なサービス改善が行われています。

郵便は、現物性、記録性、大量処理等の特性があり、国民の身近で最も基礎的な通信手段として、また、全国2万4千か所にある郵便局のネットワークを利用して、誰もが容易にどこへでも小型物品を送ることのできる運送手段として、社会的、経済的に重要な役割を果たしています。

名東郵便局における郵便の利用状況は、昭和50年の1日あたりの配達物数約2万4千通から、平成5年には8万2千通と約3.4倍にもなり、名東区の発展と共に大幅な利用増となっています。

名東郵便局の一日あたりの配達物数の推移

(単位：通)

年 度	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成元年	平成5年
配達物数	23,785	40,588	58,925	75,875	82,011

### (2) 電話事業

電話事業の100年の歩みのなかで、多くの電気通信技術が進歩し、電気通信サービスが大変身近なものになりました。今後、飛躍的な技術革新の進展、情報ニーズの高度化・多様化が進むでしょうが、21世紀をイメージする「見える・賢い・私の」サービスへとまだまだ変化していきます。

名東区における電話事業は、昭和50年2月1日の区発足と同じくして、それまでの猪高電話局から衣がえし、名東電話局として第一歩を踏み出し、以降20年地域社会とより密接な連携を保ちながら、より良い電話サービスの向上が進められています。

名東区の発展に伴う需要に即応するため数次にわたる設備投資が行われ、平成6年1月には、電話世帯普及率が97.2%とほとんどの家庭で利用されるまでになっています。また、公衆電話の設置状況を見ても、全体の98.3%がテレホンカードが使えるカード式になっています。

名東区の電話加入数と公衆電話設置数

種 別 年	加入電話		公衆電話		
	加入者数	世帯普及率	設置台数	カード式台数	カード化率
昭和50年	28,829 <sup>人</sup>	31.5 <sup>%</sup>	592 <sup>台</sup>	0 <sup>台</sup>	0 <sup>%</sup>
平成6年	110,800	97.2	1,186	1,166	98.3

## 8 電気事業・ガス事業

### 名東区電灯電力需要実績表

(平成6年5月31日現在)

#### (1) 電気事業

『3月25日』は電気記念日です。明治11年のこの日に、わが国で実験室外で最初に電灯がともされました。電気は、照明、動力、熱、源等として利用され、現代の文明社会では、水や空気と同じように生活に密着し、欠くことのできないものになっています。

電気事業は、電力を生産し、供給することをその目的とし、鉄鋼業などとならぶ国の基幹産業の一つと考えられています。

名東区では、大正9年に玉川電気会社が高針、一社、上社に点灯したと記録にあります。

この地域には、昭和26年に全国9電力会社の一つとして、中部電力(株)が発足しました。

名東区は分区独立した昭和50年当時は、千種区を担当していた「北営業所」が、次いで53年からは「天白営業所」が、平成4年7月からは名東区、守山区、尾張旭市、長久手町の電気に関するあらゆる窓口として新設された「旭名東営業所」が担当しています。

	契約種別	契約口数(口)	契約数(KW)	電力量(KWh)
電 灯	定 額	1,820	—	—
	従量甲・乙	63,999	188,050	13,110,697
	従 量 丙	4,287	45,799	4,573,577
	時 間 帯 別	125	969	123,040
	そ の 他	9,317	863	115,517
	電 灯 計	79,548	235,681	17,922,831
電 力	低 圧	6,765	49,838	2,111,325
	業 務 用	429	56,255	10,942,931
	高 圧 甲	17	2,035	347,251
	高 圧 乙	3	4,600	2,638,889
	そ の 他	17	321	4,235
	深 夜	5,442	19,880	2,019,856
	電 力 計	12,673	132,929	15,953,162
	電灯電力計	92,221	368,610	33,875,993

(口数・契約数は平成6年5月末、電力量は平成6年5月分のみ)

#### (2) ガス事業

明治5年10月、わが国で初めて横浜に「ガス燈」がともり、ガス事業が開始されました。

明治39年11月「名古屋瓦斯」が全国で7番目に発足し、大正11年6月「関西電気」と合併し、同時にガス事業の経営を分離して「東邦ガス」が発足しました。

東邦ガス星ヶ丘営業所は、名東区、千種区、昭和区、天白区、長久手町を担当区域とし、ガス工事の施工及び機器の修理等のサービス業務と家庭用ガス機器・設備の販売推進を中心とした開発業務とにより、利用者の安全でより快適なガスライフの実現を目指しています。

昭和50年名東区が独立した当時は2万5千戸に満たなかった利用戸数は、平成6年には、5万9千戸ほどになりました。

この20年間で東邦ガスの最も大きな事業は、なんといっても天然ガス転換であり、名東区では昭和55年から62年にかけて行われ無事終了しました。

# 第5章 経 済

## 1 区産業の歩み

### (1) 事業所数

名東区の事業所数は名古屋市16区中14番目であり、守山区・緑区・名東区・天白区の東部丘陵地域の4区は、下位グループに位置しています。しかし、この4区は、昭和61年からの増加数が名古屋市全体の48.8%を占めています。名古屋市全体における、東部丘陵地域の4区の構成比は、年を追うごとに増加しており、昭和50年には9.0%でしたが、平成3年には、15%を超えています。

### (2) 事業所数の推移

各年の構成比を見ると第3次産業が90%前後の割合になっています。その中でも卸売・小売業・飲食店は、事業所総数のほぼ50%の比率を示しています。金融・保険業は、実数こそ100に満たないものの昭和50年以降着実に増加の様相を示して、サービス業も同様に着実に増加しています。不動産業は、昭和50年の3倍以上の増加となっていますが、増減の波が大きく、これは、不動産業が経済状況の好・不景気の波に大きく左右されるためと思われます。

区別産業大分類別事業所数

(平成3年7月1日現在)

区 別	事業所 総 数	第 一 次 産 業				第 三 次 産 業									
		農林・ 水産業	鉱 業	建設業	製造業	電気・ガス 熱 供 給 水 道 業	運輸・ 通信業	卸売業	小売業	飲食店	金融・ 保険業	不動産 業	サービ ス 業	公 務	
全 市	156,367	34	10	9,231	20,778	104	4,377	19,858	30,838	25,553	2,487	6,580	36,217	300	
千種区	9,704	1	0	423	576	5	143	907	2,320	1,752	149	704	2,712	12	
東 区	7,942	2	1	378	737	6	115	1,302	1,391	1,026	99	543	2,328	14	
北 区	10,924	0	0	886	1,780	7	297	1,083	2,213	1,659	139	419	2,424	17	
西 区	12,344	1	1	765	2,569	4	293	1,758	2,241	1,689	111	413	2,486	13	
中村区	16,400	9	0	981	1,556	6	545	3,080	3,254	2,212	401	588	3,744	24	
中 区	24,783	6	2	688	1,146	12	435	4,527	3,440	6,706	767	1,037	5,932	85	
昭和区	7,806	0	0	400	838	3	111	850	1,897	1,054	80	617	1,941	15	
瑞穂区	7,096	1	1	401	898	4	137	614	1,752	988	102	475	1,715	8	
熱田区	6,201	3	0	369	966	8	163	1,097	1,162	805	99	250	1,269	10	
中川区	11,432	1	0	720	2,766	9	404	1,261	2,377	1,590	94	130	2,062	18	
港 区	7,828	0	0	567	1,703	16	774	548	1,472	1,087	57	132	1,445	27	
南 区	9,365	1	1	747	1,860	10	263	691	2,143	1,400	93	151	1,994	11	
守山区	6,378	3	2	614	1,282	3	244	461	1,184	852	64	223	1,432	14	
緑 区	6,324	1	0	471	1,266	6	184	348	1,375	782	78	236	1,566	11	
名東区	6,229	2	2	394	184	2	128	848	1,367	1,034	86	390	1,779	13	
天白区	5,611	3	0	427	651	3	141	483	1,250	917	68	272	1,388	8	

産業大分類別事業所数の推移

調査年月日	事業所 総 数	第 一 次 産 業				第 三 次 産 業									
		農林・ 水産業	鉱 業	建設業	製造業	電気・ガス 熱 供 給 水 道 業	運輸・ 通信業	卸売・ 小売業 飲食店	金融・ 保険業	不動産 業	サービ ス 業	公 務			
昭和50. 5. 15	2,046	10	0	139	47	3	68	1,102	16	108	544	9			
昭和56. 7. 1	4,977	10	1	276	98	3	106	2,465	51	685	1,270	12			
昭和61. 7. 1	5,436	2	1	329	151	2	115	2,883	68	389	1,482	14			
平成 3. 7. 1	6,229	2	2	394	184	2	128	3,249	86	390	1,779	13			

(3) 学区別事業所数

名東区19学区中、最も事業所の多いのは藤が丘学区で、第三次産業のうち小売業、飲食店、金融・保険業、サービス業でトップです。これは、同学区には地下鉄東山線の終着駅の「藤ヶ丘」駅があり、日進市、長久手町、尾張旭市等への交通の基点となっているためです。藤が丘、上社、名東、本郷、猪高、北一社の上位6学区で全体のほぼ50%を占めています。これは、この6学区が、地下鉄駅周辺を地域として含み、通勤・通学等の交通の要所となっているためです。

名東区の中央部を東西に走っている地下鉄の沿線地域に事業所、特に第三次産業が多く分布しています。上社学区は東名高速道路の名古屋インターチェンジを抱えており、運輸・通信業、卸売業が他の学区より多くなっています。名東区の北端に位置する香流学区と南端に位置する梅森坂学区は対照的な学区であり、位置もさることながら、事業所数においては香流学区は4番目、梅森坂学区は19番目であり、各産業別にみても香流学区は第二次産業の建設業、製造業で1番目、第三次産業でも各業種10番以内に入っています。梅森坂学区は各産業の各業種においてほとんどが19番目であり、事業所総数は名東区全体の1%に満たない数となっています。

学区別産業大分類別事業所数

(平成3年7月1日現在)

学区別	事業所総数	第一次産業	第二次産業			第三次産業								
		農林・水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス熱供給水道業	運輸・通信業	卸売業	小売業	飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	公務
総数	6,229	2	2	394	184	2	128	848	1,367	1,034	86	390	1,779	13
西山	388	0	1	21	8	1	5	23	95	59	8	31	135	1
名東	710	0	0	31	14	0	9	116	136	103	11	68	222	0
高針	257	0	0	18	11	0	5	31	66	32	7	20	66	1
猪高	410	0	0	25	4	0	10	94	55	64	7	24	126	1
藤が丘	855	0	0	25	14	0	11	75	223	194	20	60	232	1
香流	456	1	0	78	27	0	12	44	83	78	4	21	107	1
猪子石	212	1	0	10	4	0	9	28	52	43	0	2	63	0
梅森坂	40	0	0	1	2	0	1	0	9	6	1	6	13	1
蓬来	301	0	0	20	8	0	8	33	83	45	1	12	91	0
本郷	491	0	1	26	15	0	6	76	96	80	12	41	135	3
貴船	217	0	0	20	15	1	5	38	45	31	1	4	57	0
極楽	195	0	0	24	1	0	8	22	46	37	1	4	52	0
上社	347	0	0	29	8	0	15	92	41	43	3	10	104	2
豊が丘	172	0	0	9	8	0	6	28	32	30	0	5	53	1
引山	301	0	0	18	18	0	9	27	74	58	2	20	75	0
平和が丘	188	0	0	7	6	0	1	12	54	34	0	16	57	1
前山	219	0	0	14	8	0	4	24	73	31	1	5	59	0
北一社	347	0	0	12	2	0	4	63	71	43	6	38	108	0
牧の原	123	0	0	6	11	0	0	22	33	23	1	3	24	0

## 2 工業

### (1) 工場数の推移

名古屋市全体で、工場数は減少傾向にあり、昭和44年の12,289事業所を最高に、年毎の増減はありますが減少を続けています。平成4年12月31日現在では、9,974事業所と昭和37年以降始めて1万事業所を割り込みました。各区別で見ても対前回は増加した区はなく、特に名東区では、11.1%の減少率を示し、これは16区中最大のものとなっています。10%以上の減少率は名東区だけでした。名古屋市の構成比においても、名東区は、56事業所で0.6%と16区中16番目であり、15番目の千種区が232事業所、2.3%と比べてもいかに工場数が少ないかがわかります。

### (2) 従業者数・生産額

従業者数を名古屋市全体で見ますと、昭和38年の324,191人を最高に、年毎の増減はありますが減少を続けています。平成4年12月31日現在の名東区の従業者数および生産額は、ともに名古屋市全体の0.4%にすぎず、16区中最下位となっています。

産業中分類別工場数・従業者数・生産額の推移（従業員4人以上の事業所）

（生産額単位：万円）

分類	調査年月日 調査項目	昭和50. 12. 31			昭和60. 12. 31			平成4. 12. 31		
		事業所数	従業者数	年間生産額	事業所数	従業者数	年間生産額	事業所数	従業者数	年間生産額
総数		50	339	168,188	87	738	835,551	56	753	2,192,237
食料品製造業		8	32	10,373	9	41	47,416	6	66	82,182
繊維工業(衣服・その他の繊維製品を除く)		2	x	x	1	x	x	1	x	x
衣服・その他の繊維製品製造業		1	x	x	14	72	82,916	12	100	163,994
家具・装備品製造業		6	20	7,764	8	x	x	4	18	26,288
パルプ・紙・紙加工品製造業		4	x	x	3	15	4,624	1	x	x
出版・印刷・同関連産業		2	x	x	6	x	x	5	40	47,387
化学工業		1	x	x	—	—	—	—	—	—
プラスチック製品製造業(別掲を除く)		—	—	—	2	x	x	—	—	—
ゴム製品製造業		—	—	—	2	x	x	—	—	—
窯業・土石製品製造業		1	x	x	1	x	x	—	—	—
非鉄金属製造業		—	—	—	1	x	x	1	x	x
金属製品製造業		10	54	27,981	9	34	24,969	2	x	x
一般機械器具製造業		7	61	26,483	6	x	x	7	148	1,392,631
電気機械器具製造業		2	x	x	13	295	377,339	12	284	309,695
輸送用機械器具製造業		—	—	—	2	x	x	1	x	x
精密機械器具製造業		1	x	—	4	x	x	2	x	x
その他の製造業		5	48	24,787	6	36	55,255	2	x	x

(xは、件数が少ないため秘匿したもの)

## (3) 学区別工場数・従業者数・生産額

名東区の工場数・従業者数・生産額はいずれも減少傾向にあります。しかし、1工場あたりの生産額・1従業者あたりの生産額は増加しています。学区別の状況をみますと、香流学区は工場数が多いが1工場あたりの従業者数が平均約6人と中小工場の経営形態です。最も従業者数の多い前山学区でも平均約26人です。名東区全体では約8人となっています。蓬来学区・本郷学区・北一社学区などの地域には工場がほとんどなく、名東区全体としても工場の規模は中小工場が多く、ほとんどが家内手工業的な工場と思われ、いわゆる大規模な工場や工場地帯は存在しません。

## 学区別工場数・従業者数・生産額（従業者4人以上の事業所）

(生産額単位：万円)

調査年月日 調査項目 学区別	昭和63. 12. 31			平成2. 12. 31		
	工場数	従業者数	生産額	工場数	従業者数	生産額
総数	112	957	1,683,532	105	816	1,609,846
西山	3	12	9,545	3	8	9,700
名東	4	14	12,252	4	16	12,642
高針	10	32	18,046	8	35	18,676
猪高	2	x	x	2	x	x
藤が丘	7	61	52,578	7	52	63,949
香流	24	134	149,591	24	138	180,833
猪子石	2	x	x	—	—	—
梅森坂	3	34	11,402	2	x	x
蓬来	1	x	x	1	x	x
本郷	1	x	x	1	x	x
貴船	6	44	32,182	6	48	80,975
極楽	2	x	x	3	10	7,135
上社	4	60	257,138	2	x	x
豊が丘	6	31	31,451	6	33	36,322
引山	18	67	28,893	16	58	31,254
平和が丘	3	6	8,073	3	6	9,734
前山	7	247	770,679	7	181	820,373
北一社	—	—	—	—	—	—
牧の原	9	173	193,825	10	162	138,310

(xは、件数が少ないため秘匿したものの。)

### 3 商業

#### (1) 商店数・従業者数・販売額

卸売業の商店数は、昭和54年から平成3年の間に約3倍になり、従業者数も約3.5倍になっています。また、年間販売額は約7.5倍になっており、1商店あたり平均2倍の年間販売額になっています。

小売業については卸売業のような高い伸びではないものの、商店数・従業者数・年間販売額は昭和54年以来着実に増加しており、商店数は約1.3倍程度の増加に対して年間販売額は3倍近くの増加をみせています。平成3年の小売業中分類別の内容をみますと「織物・衣服・身の回り品小売業」の年間販売額は小売業全体の約10%の比率ですが、昭和54年の販売額と比較すると約4倍になっていることが、大きな特徴です。

飲食店は商店数の増加数に関係なく、従業者数の増加率に連動して年間販売額が増加しています。

産業中分類別の商店数・従業者数・年間販売額の推移

(販売額単位：万円)

分類別	調査年月日		昭和54. 6. 1			昭和60. 5. 1			平成3. 7. 1		
	調査項目	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額	
卸・小売業総数		1,314	7,377	23,827,943	1,668	11,508	52,911,954	2,193	18,583	149,270,502	
卸売業		285	3,144	17,341,324	487	5,363	39,628,208	831	11,122	129,865,166	
各種商品卸売業	}	285	3,144	17,341,324	—	—	—	—	—	—	
繊維・機械器具・建築材料等卸売業					252	2,575	24,680,830	474	6,970	93,625,979	
衣服・食料・家具等卸売業					235	2,788	14,947,378	357	4,152	36,239,187	
代理商・仲立業		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小売業		1,029	4,233	6,486,619	1,181	6,145	13,283,746	1,362	7,461	19,405,336	
各種商品小売業		—	—	—	3	425	1,148,371	3	242	1,223,196	
織物・衣服・身の回り品小売業		164	476	462,485	218	737	1,275,853	289	1,013	1,886,995	
飲食品小売業		366	1,518	2,495,781	342	1,915	3,371,668	367	2,210	4,831,774	
自動車・自転車小売業		58	510	1,478,154	84	741	2,214,262	103	869	4,928,416	
家具・建具・じゅう器小売業		114	386	689,960	130	499	986,762	141	676	2,220,991	
その他の小売業		327	1,343	1,360,239	404	1,828	4,286,830	459	2,451	4,313,964	
飲食店		713	2,406	887,170	737	3,357	1,607,650	736	3,998	1,906,858	
					(S 61.10.1 現在)			(H 4.10.1 現在)			

(xは、件数が少ないため秘匿したもの)

(2) 学区別事業所数・従業者数・販売額

卸売業の年間販売額は、地下鉄沿線の藤が丘学区・上社学区・本郷学区・猪高学区・北一社学区で年間販売額の1位から5位までを占めています。この5学区で年間販売額の約70%を占めており、特に本郷学区・上社学区はそれぞれで約20%ずつの割合です。

小売業は上位5学区の藤が丘学区・名東学区・北一社学区・本郷学区・蓬来学区で約50%の年間販売額を占めています。蓬来学区を除けばいずれも地下鉄沿線の学区です。蓬来学区は市バスの猪高車庫に隣接し交通の起点になり、市営猪子石荘、千種区の千代が丘団地にも隣接し商業の発展要素を多く持っています。

飲食店についても地下鉄沿線学区の数値が高く、名東区の商業分布が地下鉄沿線を軸として発展している様子がうかがえます。

学区別商店数・従業者数・年間販売額

(平成3年7月1日現在・販売額単位：万円)

学区名	卸 売 業			小 売 業			飲 食 店 (平成4.10.1現在)		
	商店数	従業者数	年 間 商品販売額	商店数	従業者数	年 間 商品販売額	商店数	従業者数	年 間 商品販売額
総 数	831	11,122	129,865,166	1,362	7,461	19,405,336	736	3,998	1,906,858
西 山	23	146	938,585	95	446	609,039	42	201	100,932
名 東	112	1,077	8,943,723	136	849	2,332,289	65	317	142,829
高 針	30	180	946,600	66	389	1,011,720	26	109	40,772
猪 高	92	3,143	18,829,794	53	372	1,042,343	48	403	204,548
藤 が 丘	74	633	9,266,215	223	1,101	2,611,260	116	720	341,923
香 流	41	234	1,176,828	83	441	928,329	55	221	110,371
猪 子 石	28	284	5,045,529	51	430	754,378	32	151	75,028
梅 森 坂	—	—	—	9	85	103,607	6	18	14,665
蓬 来	33	304	2,841,087	83	368	1,483,311	37	124	64,876
本 郷	76	1,153	26,230,780	96	623	1,474,899	47	260	135,197
貴 船	37	375	3,193,968	45	241	675,274	29	147	49,533
極 楽	22	124	607,344	46	218	486,565	28	165	82,910
上 社	89	1,450	24,818,575	40	297	1,116,683	36	232	105,011
豊 が 丘	28	339	8,778,268	32	117	368,014	21	103	50,989
引 山	27	147	803,474	73	211	444,616	40	87	46,640
平和が丘	12	111	513,048	54	284	546,562	23	130	60,135
前 山	23	270	1,449,034	73	379	988,077	28	165	81,358
北 一 社	63	939	14,138,941	71	382	1,704,293	37	300	140,223
牧 の 原	21	213	1,343,343	33	228	724,077	20	145	58,918

#### 4 農 業

名古屋市に合併前の猪高村では農業が地域の主産業であり、緩やかな丘陵地帯に灌漑用ため池が点在する緑豊かな田園地帯に、戦前には特産物の葉煙草の生産、戦後は米麦を中心にその他の穀類や野菜を生産していました。

名古屋市に合併後の昭和30年代にはいと、猪高西山地区を皮切りに、区内各地で活発に土地区画整理事業が進められ、急速に農業生産の基盤であった農地が住宅へと変貌したことで、国の高度経済成長により国民所得水準の向上と生活様式などの変化とがあいまって、農家労働力が流出し、農業の兼業化が進み耕作面積が激減しました。

こうした情勢の中で、最近では、植田川流域の猪高町高針大久手・荒田地区に水田地帯が残され、区画整理終了地区では畑が点在するようになりました。残された水田では稲作が、点在する畑では野菜や苗木、果樹が栽培されています。

農家戸数・農業人口等の推移

	昭和30年	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成2年
農 家 総 数	1,120戸	697戸	367戸	286戸	335戸
専 業 農 家	321	52	12	23	25
兼 業 農 家	799	645	355	263	310
農 業 者 人 口	5,101人	3,622人	1,815人	1,351人	1,519人
耕 地 面 積	57,890㎡	37,608㎡	13,897㎡	7,703㎡	8,596㎡

現在、都市化の渦中にある農地は、都市における緑地・災害防止のためのオープンスペースとなっており環境保全上の役割が評価され、平成3年の生産緑地法の改正により市街化区域内にある一定の要件に該当する農地等について、その緑地機能に着目して都市計画の制度として、計画的な保全が進められています。

また、都市化の進展の著しいなかで、多くの市民が野菜や花の栽培を通じて、



みどりの農園

自然に親しむ場として、名古屋市が市街化区域内の農地を所有者から無償で借り受け、子ども会や老人クラブ等の団体を対象に、原則として無料で利用できる「みどりの農園」を設置しています。

名東区内では、子ども会8団体、老人クラブ8団体が2か所で、32区画1,732㎡の農園を利用しています。